

舞鶴 第1号

＜教育目標＞
自主・自律・豊かな心
村上市立村上第一中学校 令和7年4月8日発行

入学式式辞

82名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。村上第一中学校は、全校生徒、全職員で皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

今日から皆さんは「一中生」と呼ばれます。村上第一中学校は、その名の通り、地域に誇れる、歴史のある伝統校です。令和7年度の今年、創立56年目を迎えます。皆さんの後ろに座っている先輩達を始め、これまでの多くの卒業生が代々引き継いできました。

一中で最も大切にされてきたのは生徒自身が主体となって学校をつくってきたという誇りと、生徒が中心となって話し合い、これまでの活動を見直し、更なる高みを目指して改善するという精神です。近年、文部科学省は、決まりの見直し等の手順をホームページに載せ、地域に向けてもそのような活動をしていると知らせるべきだと言っています。しかし、一中はすでに何十年も前からこのような活動をし続けてきました。

令和7年度の生徒会スローガンは、「『咲』(さく)」です。これは、昨年度の卒業式後に、新3年生と新2年生のリーダーが、生徒会を中心とする研修会の活動の中でつくったものです。このスローガンには「『笑顔が咲き誇る』一中を目指すという想い」が込められているそうです。

このような生徒の自主性は、勉強はもちろん、学校行事や生徒会活動、部活動などに、主体的に全力で取り組む姿として見るすることができます。こうした先輩たちの姿はおおいに皆さんの手本となることでしょう。先輩たちからしっかりと学び一緒に活動する中で、名実ともに、自信と誇りをもった真の「一中生」になってくれるものと期待しています。

さて、村上第一中学校には目指す生徒の姿が三つあります。まず一つ目は、「向上心を持って、挑み続ける生徒」です。二つ目が、「自分で考え、責任を持って行動する生徒」、三つ目は、「自他を尊重し、協力し合う生徒」です。

これらの三つの姿になるために、一つ目については、あまり慎重になりすぎずに、「まず、始める」ことです。中学校は教科担任制で、毎時間先生が変わります。生徒が中心となって活動する生徒会活動もあります。運動部については、来年には完全に地域展開となりますが、部活動もあります。そして、そこには新しい出会いもあるはずですが、新しいことなので分からないことがあるのは当然です。分かっていく気持ちは自分自身のエネルギーとなります。自分から一歩前に踏み出してみましょう。

二つ目については、自分で決めて、やり抜く、「強い自分」を見つけることです。必ず自分の中にいます。誘惑に負けそうになる自分を、「それでいいのか」と止めてくれるもう一人の自分です。小学校の時よりも時間の使い方が大切になります。おうちの人に言われる前に、次の日の持ち物を準備し、自ら立てた計画で家庭学習し、自分の事は自分でやれるようになってほしいです。このような自分になるためには習慣化する必要があります。初めは無理のない範囲で、毎日同じ時間に、同じ場所で、同じ行動や分量をやるのです。それには土曜日や日曜日のような休みはありません。意識して取り組んでみましょう。

三つ目は、自分を理解して、自分の良さや弱さを知ることです。また、相手を思いやる心は、他者の良さや弱さを理解し、自分を大切にすることと同様に他を大切に思うことから育まれます。より良い人間関係づくりの能力を身に付けた人は、自ずと成長し、すべてを自分事と考えるようになり、自分の判断と責任で行動できるようになると思います。

最後に、保護者の皆様、お子様のご入学、本当におめでとうございます。制服に身を包み、いよいよ中学生となる我が子のたくましく成長した姿をごらんになり、喜びもひとしおのことと拝察いたします。一方、これから思春期に入る子どもたちです。環境も変わり様々な御不安や御心配もおもちのことと思います。その不安や心配を、安心や信頼に変えるべく、私ども職員一同、最善の努力をすることをお約束いたします。保護者の皆様におかれましては、御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

この82名の生徒たちが、村上の未来を支える人材として、健やかに成長できますよう、本日御臨席の全ての皆様方の御協力を重ねてお願い申し上げます。

令和7年4月8日 村上市立村上第一中学校長 鈴木 健史

英語の学力向上に向けた、実用英語技能検定試験の推奨

(令和5年度学校だより3号 校長講話より抜粋※英検の金額はR7年度のものとなります)

グローバル化の中で、日本政府は、第3期教育振興基本計画（平成30年6月15日閣議決定）で、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成するために、中学校ではCEFR*₁ A1（英検3級程度）の英語力を身に付けること」を目標として掲げました。

先月の17日に文部科学省は、全国の公立小中学校を対象にした、2022年度英語教育実施状況調査の結果を公表しました。中3で「英検3級」以上の英語力がある生徒は49.2%、高3で「英検準2級」以上は、48.7%でした。2022年度中に50%にするという政府目標には届きませんでした。

中3の「英検3級」以上の割合を都道府県・政令市別に見ると、さいたま市の86.4%が最も高く、新潟県は43.9%、新潟市が38.7%でした。村上第一中学校はというと、令和4年度は35.8%でした。全国よりも13.4%、県よりも8.1%低いのが現状です。

新潟県では、CEFR A1（英検3級程度）の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均を大きく下回る現状に対して、小学校で英検 ESG*₂、中学校で英検 IBA*₃を活用して、児童生徒の英語力の実態を把握し、授業改善の推進を図ること、英語の習得状況を小中同じ指標で把握し、小中連携した英語教育の一層の充実を図ることにしています。

ここでいう、英検 ESC とは、無償で、授業中の活動として実施されるもので、オンラインで「聞く」「読む」の力を測り、自分の英語の学習到達度を理解するというものです。一方、英検 IBA とは、県内の全中学校・全生徒を対象に、同じくオンラインで英検の複数級の問題を組み合わせ、学習指導要領に基づく学習内容に対応させたテストです。

実は、村上市はすでに、平成28年3月に「村上市英語検定料補助金交付要綱」を策定して、「英語力及び学習意欲の向上を図る」ことを目的として取組を行っています。内容としては、村上市立中学校の在籍生徒が、4級以上の英語検定を受検する場合の検定料の全額分（ただし、1人につき年度内1回限り）を補助するというものです。たとえば、1年生で4級（2,900円）、2年生で（3級5,000円）、3年生で（準2級6,100円）を受けたならば、3年間で14,000円の補助を受けられます。しかも、英語科の教員が行う、英検の2次試験用の面接練習に市からも無料で支援してくれます。こんなことをしてくれる市町村はめったにありません。是非、年間1人1回は受検しましょう。まずは受検しないことには始まりません。目指せ受検率100%です！

*1=CEFR（セファール）：Common European Framework of Reference for Languages（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）のこと。

*2=ESG：Elementary School Goals

*3=IBA：Institution Based Assessment

